

# 参考資料

(目標毎の施策等の一覧表及び指標の進捗状況)

平成24年8月

岡山県 環境文化部

## 計画の概要

<計画により目指すべき姿（2020年度（H32））>

「より良い環境に恵まれた持続可能な社会」



○基本目標：目指すべき姿を実現するために取り組む基本的な目標

○推進目標：基本目標の施策を効果的に推進するための目標

## 基本目標 1 地域から取り組む地球環境の保全

### ○ 主要施策・重点プログラム (■：主要施策 ⑰ ㊦：重点プログラム ⑳)

#### 【地球温暖化対策】

##### ■建築物等の省エネルギー化の促進

㊦省エネ診断制度の創設、㊦信号灯器のLED化、㊦壁面緑化等の普及推進 など

##### ■事業者の温室効果ガス排出抑制の促進

㊦温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の創設、㊦環境影響評価における指導

##### ■省エネ型ライフスタイル・ビジネススタイルの定着促進

㊦アースキーパーメンバースHIP会員の拡大、㊦エコドライブ教室・講習の開催 など

##### ■省エネ住宅・省エネ家電製品の普及拡大

㊦省エネ住宅の普及拡大、㊦省エネ家電製品の普及拡大

##### ■地産地消の推進

##### ■低公害車の導入促進

㊦県公用車への低公害車の率先導入、㊦電気自動車普及のための基盤づくり

##### ■公共交通機関等の利用促進

㊦自動車の利用抑制、㊦バス・電車等の利用促進

##### ■交通円滑化の推進

㊦道路整備等の推進、㊦新交通管理システムの整備

##### ■フロン類対策の推進

㊦フロン類の適正回収の推進

##### ■太陽光発電の導入促進

##### ■バイオマスエネルギーの利用拡大

㊦未利用バイオマス等の利活用促進、㊦木質バイオマスの活用推進 など

##### ■グリーン電力証書システム等の普及

##### ■森林の保全

㊦公益的機能を高めるための森づくりの推進、㊦里山ふれあいの森づくり

##### ■都市の緑化推進

㊦全国都市緑化フェアの開催

#### 【酸性雨対策】

##### ■硫黄酸化物・窒素酸化物の排出抑制

#### 【国際貢献】

##### ■人材育成の支援

##### ■環境技術協力

○ 指標の進捗状況

(代表的な指標 : 8 達成 : 2 不達成 : 0)

(通常指標 : 6 達成 : 1 不達成 : 0)

代表的な指標	項目	計画時点 (H16)	努力目標 (H32)	実績 (H20)	評価、問題点等	達成 項目
	製造品出荷額当たりのエネルギー消費量(GJ/百万円)	77.4	61.9	54.1	製造品出荷額当たりのエネルギー消費量は、努力目標を上回ったものの、業務その他部門の床面積当たりのエネルギー消費量については、パソコン等OA機器の普及や、冷暖房設備の電化などにより、削減があまり進んでいない。	○
	CO <sup>2</sup> 換算 kg-CO <sup>2</sup> /百万円	4,703	3,668	3,448		○
	業務その他部門の床面積当たりのエネルギー消費量(MJ/m <sup>2</sup> )	962	770	956	普及拡大推進の母体となっていた省エネ家電普及促進協議会がH22をもって解散したことから、エコパートナーシップおやかまの取組目標として統一省エネラベル等を参考にした省エネ型家電製品等の購入の促進を図った。	
	CO <sup>2</sup> 換算 kg-CO <sup>2</sup> /m <sup>2</sup>	134.4	112.9	141.0		
	1世帯当たりのエネルギー消費量(GJ)	41.9	33.6	35.8	普及拡大推進の母体となっていた省エネ家電普及促進協議会がH22をもって解散したことから、エコパートナーシップおやかまの取組目標として統一省エネラベル等を参考にした省エネ型家電製品等の購入の促進を図った。	
	CO <sup>2</sup> 換算 kg-CO <sup>2</sup> /世帯	5,287	4,335	4,952		
	自家用車1台当たりのエネルギー消費量(GJ)	35.9	26.9	34.8	一般県民及び県職員に対して6回のエコドライブ講習会を実施し、計293名の参加があった。	
	CO <sup>2</sup> 換算 kg-CO <sup>2</sup> /台	2,420	1,810	2,340		

重点プログラム		項目	計画時点 (H18)	努力目標 (H24)	実績 (H23)	評価、問題点等	達成 項目			
地球温暖化対策	省エネルギーの推進	信号灯器のLED化	信号灯器のLED化率(%)	16	50	40.0	目標達成に向け、計画的な整備を推進した。			
		温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の創設	製造品出荷額当たりのエネルギー消費量(GJ/百万円)《再掲》	(H16)	(H20)	77.4	67.5	54.1	製造品出荷額当たりのエネルギー消費量は、努力目標を上回ったものの、業務その他部門の床面積当たりのエネルギー消費量については、パソコン等OA機器の普及や、冷暖房設備の電化などにより、削減があまり進んでいない。	○
			業務その他部門の床面積当たりのエネルギー消費量(MJ/m <sup>2</sup> )《再掲》	(H16)	(H20)	962	803	956		
		アースキーパーメンバーシップ会員の拡大	アースキーパーメンバーシップ会員数(累計)	5,900	10,500	10,450	HPやメールなどを活用して既会員に対して、継続的な実践を促進するとともに、さらなる積極的な加入促進を図った。			
		「みんなでエコライフ」の取組促進	エコライフ宣言団体数	0	120		アースキーパーメンバーシップ制度の普及により、エコライフの取組を促進することとし、事務事業を見直した。			
		エコドライブ教室・講習の開催	自家用車1台当たりのエネルギー消費量(GJ)《再掲》	(H16)	(H20)	35.9	28.5	34.8	一般県民及び県職員に対して6回のエコドライブ講習会を実施し、計293名の参加があった。	
		省エネ家電製品の普及拡大	1世帯当たりのエネルギー消費量(GJ)《再掲》	(H16)	(H20)	41.9	35.1	35.8	普及拡大推進の母体となっていた省エネ家電普及促進協議会がH22をもって解散したことから、エコパートナーシップおやかまの取組目標として統一省エネラベル等を参考にした省エネ型家電製品等の購入の促進を図った。	

## 基本目標 2 循環型社会の形成

### ○ 主要施策・重点プログラム (■：主要施策 ⑪ ㊦：重点プログラム ⑳ )

#### 【3Rの推進】

##### ■循環型社会に向けたライフスタイルの変革

㊦「おかやま・もったいない運動」の推進、㊦マイバッグ運動の推進

##### ■循環資源情報の提供

㊦循環資源マッチングシステムの利用促進 など

##### ■一般廃棄物の3Rの推進

㊦循環型社会づくりに向けた処理システムの構築、㊦ごみの分別収集の徹底 など

##### ■産業廃棄物の発生抑制

㊦排出業者に対する指導・助言、㊦ごみゼロガイドラインの推進 など

##### ■循環資源の利活用促進

㊦新技術・新規事業の創出、㊦3Rに関する広域ネットワークの形成 など

##### ■岡山エコタウンプランの推進

㊦循環型社会形成推進モデル事業の推進、㊦岡山エコタウンを生かした環境学習の推進

#### 【グリーン購入等の推進】

##### ■グリーン購入等の推進

㊦「岡山県グリーン調達ガイドライン」に基づく取組の推進 など

#### 【廃棄物の適正処理の推進】

##### ■産業廃棄物の適正処理の推進

㊦処理業者等に対する監視・指導、㊦電子 manifests の導入促進 など

##### ■一般廃棄物の広域処理の推進

㊦新岡山県ごみ処理広域化計画の推進

##### ■不法投棄の根絶

㊦不法投棄監視体制の強化、㊦監視体制のネットワーク化 など

##### ■広域的な移動に対する対応

○ 指標の進捗状況

(代表的な指標 : 2 達成 : 1 不達成 : 0)  
 (通常指標 : 11 達成 : 6 不達成 : 0)

項目	計画時点 (H17)	努力目標 (H32)	実績 (H23)	評価、問題点等	達成項目
代表的な指標 一般廃棄物の排出抑制・資源化率 (%)	90	95	(H22) 93.1	ごみの排出抑制や資源化等に係る取組により、最終処分量が抑制され、資源化率も増加した。	
産業廃棄物の排出抑制・資源化率 (%)	93	95	(H22) 95	産業活動が低調となり排出量が大幅に減少した21年度に比べると、排出量、最終処分量ともやや増加したが、目標値を達成した。	○

重点プログラム	項目	計画時点 (H18)	努力目標 (H24)	実績 (H23)	評価、問題点等	達成項目	
3Rの推進	ライフスタイルの循環型社会に向けた変革	マイバッグ運動の推進 マイバッグ持参率 (%)	(H19) 29	50	45	「岡山県統一ノーレジ袋デー」による啓発活動に取り組んだところ、平成24年2月時点のマイバッグ持参率は45%に向上したが、目標には及ばなかった。	
		循環資源マッチングシステムの利用促進 循環資源マッチングシステムによる取引成立件数(累計)	60	150	94	パンフレット等を活用し、各環境イベントにおいて普及啓発を行い、成立件数は3件増加した。関係機関と連携し、更なる普及啓発に努める。	
		おかやまりサイクル・もって一ネットの利用促進 おかやまりサイクル・もって一ネットによる取引成立件数(累計)	—	700		平成20年度で事業廃止	
	一般廃棄物の3R	一人当たりごみの排出量※(g/人・日)(※ごみの排出量=収集ごみ量+直接搬入量+集団回収量)	(H17) 1,091	1,060	(H22) 948	年々着実に減少傾向にあり、努力目標を達成している。	○
		一般廃棄物のリサイクル率 (%)	(H17) 25.8	32.7	(H22) 25.7	近年横ばい状況にあり、努力目標に及ばないため、さらなる分別回収等の推進が必要である。	
		一般廃棄物の最終処分量(t/日)	(H17) 214	200	(H22) 148	ごみの排出量の抑制により、直接最終処分される量が減少し、努力目標を達成している。	○
		10種分別実施市町村数	11	12	12	第5期分別収集促進計画(平成20~24年度)により市町村に助言等を行い、10種分別実施市町村数が増加し、努力目標を達成した。	○
	産業廃棄物の3R	産業廃棄物の排出量(千t/年)	(H17) 6,971	6,900	(H22) 5,906	産業活動が低調となり排出量が大幅に減少した21年度に比べるとやや増加したが、目標値を達成した。	○
		産業廃棄物の発生抑制 循環資源の利活用推進 産業廃棄物のリサイクル率 (%)	(H17) 38.2	39.1	(H22) 39.1	リサイクル率の高いばいじん等の排出量に占める割合が大きくなり、目標値を達成した。	○
		産業廃棄物の最終処分量(千t/年)	(H17) 501	405	(H22) 348	産業活動が低調となり排出量が大幅に減少した21年度に比べるとやや増加したが、目標値を達成した。	○
適正処理の推進	電子マニフェストの導入促進 電子マニフェストの普及率 (%)	(推計) 5	60	(H22) 27.7	電子マニフェスト普及促進のため、排出事業者等に対する周知を図るとともに、率先行動として、県が排出する産業廃棄物の処理委託に当たっては、原則として全て電子マニフェストを使用した。		
	農業用廃プラスチックの適正処理の推進 農業用使用済プラスチックの再生処理 (%)	20	40	(H27) 30	関係機関・団体を中心に回収体制がほぼ整備されており適正処理は進んでいるものの、処理費用等の関係で埋め立て処理が中心である。		

## 基本目標3 安全な生活環境の確保

### ○ 主要施策・重点プログラム (■：主要施策 ⑩：重点プログラム ⑳)

#### 【大気環境の保全】

##### ■自動車公害対策の実施

⑩「おかやまエコドライブ宣言」県民・事業者の募集 など

##### ■低公害車の導入促進

⑩県公用車への低公害車の率先導入、⑩電気自動車普及のための基盤づくり

##### ■公共交通機関等の利用促進

⑩自動車の利用抑制、⑩バス・電車等の利用促進

##### ■交通円滑化の推進

⑩道路整備等の推進、⑩新交通管理システムの整備

##### ■大気汚染防止対策の実施

⑩工場・事業場の監視・指導、⑩大気汚染夏期対策の実施

##### ■悪臭被害の防止

#### 【水環境の保全】

##### ■清流保全対策の推進

⑩生活排水対策の推進、⑩工場・事業場対策の推進、⑩環境に配慮した水辺づくり

##### ■森林の保全

⑩公益的機能を高めるための森づくりの推進、⑩里山ふれあいの森づくり

##### ■瀬戸内海の保全と再生

⑩豊かな自然をはぐくむ里海づくり、⑩自然海浜の保全等、⑩瀬戸内海の埋立規制

##### ■湖沼水質保全対策の推進

⑩児島湖再生の推進、⑩流域下水道事業の推進、⑩ダム湖の水質対策

#### 【騒音・振動の防止】

##### ■道路交通騒音・振動、新幹線鉄道騒音・振動対策

⑩道路交通、新幹線鉄道の騒音・振動対策

##### ■工場・事業場等の騒音・振動の規制

⑩騒音に係る環境基準のあてはめ地域の拡大等

#### 【土壌・地下水汚染対策】

##### ■土壌・地下水汚染の防止

#### 【有害物質対策】

##### ■有害化学物質による環境汚染の防止

⑩有害大気汚染物質対策の推進、⑩リスクコミュニケーションの推進 など

##### ■アスベスト対策の推進

⑩アスベスト対策の推進

#### 【環境放射線の監視】

##### ■環境放射線の監視

○ 指標の進捗状況 (代表的な指標：2 達成：0 不達成：0)  
(通常指標：23 達成：11 不達成：3)

代表的な指標	項目	計画時点 (H18)	努力目標 (H32)	実績 (H23)	評価、問題点等	達成 項目
	児島湖の水質(COD、mg/l)	8.0	6.0	7.8	改善の傾向にあるが、気象による変動があり、粘り強く施策の推進を図る必要がある。	
	低公害車の保有台数	233,831	800,000	379,529	保有台数は着実に増加している。	

重点プログラム	項目	計画時点 (H18)	努力目標 (H24)	実績 (H23)	評価、問題点等	達成 状況	
大気環境の保全	「おokayまエコドライブ宣言」県民・事業者の募集	0	17,000	12,374	登録数は着実に増加している。		
	道路整備等の推進	14	24	21	平成23年度に渋滞緩和が図られた交差点は、残る4箇所のうち、国道313号の交差点改良事業の完了による1箇所のみであるが、達成出来なかった他の3箇所の渋滞緩和については、翌年度5月までに達成が見込まれるなど、計画期間中に着実かつ集中的な取り組みが行われている。 これらの実績を総合的に評価した結果、概ね目標水準を満たしているものと判断する。		
	新交通管理システムの整備	65	250	243	目標達成に向け、計画的な信号機の高性能化を推進した。		
水環境の保全	生活排水対策の推進	浄化槽整備人口(千人)	223	240	208	過去に設置された浄化槽の下水道接続により整備人口は減少したが、汚水処理施設全体の整備率は着実に増加している。 (整備率 H18:65.7% ⇒ H23:75.4%)	×
		集落排水施設整備地区数	119	134	134	計画どおり、目標を達成することが出来た。	○
		公共下水道普及率(%)	52.3	60.4	61.8	クリーンライフ100構想に基づき、計画的な施設整備を推進し、努力目標は達成した。	○
	環境に配慮した水辺づくり	ホテルの生息地箇所数	227	281	266	生息箇所は概ね順調に増加している。	
		出会いとふれあいの水辺づくりの実施河川数	4	14	9	行政と地域住民が協働して、河川環境整備に取り組み、ふれあいの川づくり空間の整備を推進した。また、協働による取組が安全な河川環境の確保、地域住民の自然への親しみ、関心の高まりへとつながった。	
	公益的機能をも高めるための森づくりの推進	水源かん養保安林(ha)	112,179	115,400	120,130	すでに目標を大幅に上回っており、保安林の指定が促進できている。	○
	豊かな自然をはぐむ里海づくり	海のゆりかご(藻場)拡大事業(ha)	930	1,000	1,014	努力目標を大きく上回った。	○
		干潟の面積(ha)	455	480	461	平成23年度中に2箇所の干潟が整備されたものの、他の箇所については整備年度が延伸されたこと等によって達成率が低くなった。	×
		海ごみ適正処理体制構築事業(設置市数)	5	7	7	努力目標を平成24年度に先立って達成することができた。	○
		汚濁負荷の削減目標量	(H16)	(H21)	(H21)		
		COD(t/日)	47	43	39		○
	窒素(t/日)	43	42	40	生活排水対策の普及啓発、工場事業場のCOD・窒素・りんが発生負荷量の削減指導を実施した。	○	
	りん(t/日)	2.5	2.4	2.3		○	
	自然海浜の保全等	環境学習の場としての活用海浜数	0	3	0	継続して取り組むことができる環境学習の検討が必要である。	
	児島湖再生の推進	水質目標値(COD、mg/l)《再掲》	8.0	7.2	7.8	改善の傾向にあるが、気象による変動があり、粘り強く施策の推進を図る必要がある。	
合併浄化槽の設置基数(基)		19,400	26,200	26,491	着実に設置基数が増加している。	○	
浄化用水の導入量(万m <sup>3</sup> /日)		48	60	55	農業用水路の改修工事による取水量の制限があり、浄化用水量が減少した。		
ダム湖の水質対策	ダム湖の湖沼類型指定数	0	7		湖沼類型の対象となる7箇所のダム湖については、水質調査や利水状況調査、水質の将来予測等の結果から、当面現行のあてはめ水域の類型により、ダム湖の水質調査を継続することとしている。		
騒音・振動の防止	道路交通騒音・振動、新幹線鉄道騒音・振動対策	9.6	12.6	19.2	低騒音舗装道路延長は増加しており、当初の目標を達成した。	○	
有害物質対策	内分泌かく乱化学物質等調査						
	内分泌かく乱化学物質対策の推進	地点数	22	25	25	3年間でのローリング方式により25地点で調査を実施した。	○
	項目数	24	25以上	25	ビスフェノールA、DDTなど25項目について調査を実施した。		

## 基本目標4 自然と共生した社会の形成

### ○ 主要施策・重点プログラム (■：主要施策 ⑨ ㊦：重点プログラム ⑬)

#### 【優れた自然環境の保全】

##### ■自然保護の推進

㊦自然環境の保全活動等の認定制度の創設、㊦自然と調和した開発の指導

##### ■自然公園等の保護・管理

#### 【生物多様性の確保】

##### ■希少野生動植物の保護

㊦レッドデータブックの充実と希少野生動植物の保護

##### ■外来生物対策の推進

㊦外来生物に関する普及啓発の推進

##### ■野生鳥獣の保護管理

㊦特定鳥獣保護管理計画の推進

#### 【自然とのふれあいの推進】

##### ■自然とふれあう場の充実

㊦自然環境学習の充実、㊦自然とふれあう場や機会の充実

#### 【水とみどりの潤い空間の保全と創出】

##### ■水辺環境の保全と創出

##### ■森林の保全

㊦公益的機能を高めるための森づくりの推進、㊦里山ふれあいの森づくり

##### ■身近なみどりの保全と創出

㊦農地・農業用水等の保全、㊦里地サポート活動の推進、㊦緑化推進体制の充実 など

○ 指標の進捗状況

(代表的な指標 : 2 達成 : 0 不達成 : 0)

(通常指標 : 8 達成 : 2 不達成 : 0)

代表的な指標	項目	計画時点 (H18)	努力目標 (H32)	実績 (H23)	評価、問題点等	達成 状況
	希少野生動植物 (条例指定)の保護 に取り組む地域 数	4	10	9	希少野生動植物について、新規の条例指定に向けた調査を実施した。また、既指定の6種類について、地元市町村及び県民との協働による保護の取組を行うとともに、新たに動物1種(カワバタモロコ)を追加指定した。	
自然公園利用者 数(万人)	(H17) 1,234	1,450	(H22) 1,226	国や関係市町村と連携して利用施設の適正な維持管理や普及啓発を図ったが、利用者数は前年度よりは増加したものの目標水準を達成できなかった。		

重点プログラム		項目	計画時点 (H18)	努力目標 (H24)	実績 (H23)	評価、問題点等	達成 状況
優れた 保全 自然 環境	自然環境の保全活動 等の認定制度の創設	自然保護推進員 数(人)	85	100	89	任期満了に伴いH24年1月より委嘱した自然保護推進員数は目標には達しないものの、前回(H22年委嘱)より1名増員した。	
	レッドデータブックの充 実と希少野生動植物の 保護	希少野生動植物 (条例指定)の保護 に取り組む地域 数《再掲》	4	7	9	希少野生動植物について、新規の条例指定に向けた調査を実施した。また、既指定の6種類について、地元市町村及び県民との協働による保護の取組を行うとともに、新たに動物1種(カワバタモロコ)を追加指定した。	○
生物 多 様 性 の 確 保	特定鳥獣保護管理計 画の推進	イノシシの被害額 (千円)	168,862	100,000	156,958	被害防止対策の推進及び捕獲の推進(夏期の一斉許可捕獲促進助成事業(農林水産部)等)による積極的な駆除活動により、昨年と比べると被害が軽減されたものの、被害額は依然として高い水準にある。	
	自然環境学習の充実	自然保護センター の利用者数(人)	23,077	30,000	22,078	利用者数は、前年度に比べると、自然観察会や団体利用では僅かに増えたものの、天候に左右されやすい一般利用については、行楽シーズン(5月、10月)の天候不順等により減少し、全体として落ち込んだ。	
自然 と ふ れ あ い の 推 進	自然とふれあう場や機 会の充実	長距離自然歩道 の利用者数(万 人)	(H17) 73	190	162	中国自然歩道の公衆便所や案内標識等の再整備を行い、関係市町村と連携して自然歩道施設の適正な維持管理や普及啓発を行った。	
	水 と み ど り の 保 全 と 潤 い 空 間 の 創 出	里山ふれあいの森づく り	森づくり活動の参 加者数(人)	4,837	7,000	8,871	指導者の育成や身近な里山林での活動支援などを行った成果が、参加者の確保に結びついたものと考えられる。
緑化推進体制の充実		緑の募金総額(万 円)	1,790	2,500	1,658	街頭募金や職場募金、イベントでの募金依頼等、積極的に募金活動を行ったが、募金額は目標額を下回った。	
		一人当たり都市公 園面積(m <sup>2</sup> )	14.0	15.0	(H22) 14.3	(公園整備)一人当たり都市公園面積は計画時点より増加したが、県及び市町村における新規の都市公園整備が減少しており、今後の大きな伸びは見込めない状況にある。	

## 推進目標 1 参加と協働による快適な環境の保全

### ○ 主要施策・重点プログラム (■：主要施策 ⑦ ㊦：重点プログラム ⑰)

#### 【協働による環境保全活動の促進】

##### ■環境NPO等との協働

㊦環境パートナーシップの形成促進、㊦アダプト事業の推進 など

#### 【環境学習の充実】

##### ■環境学習の推進

㊦移動環境学習車の活用、㊦環境学習エコツアーの実施、㊦こどもエコクラブの活動支援 など

##### ■教職員に対する環境研修の実施

##### ■環境学習の機会の提供

#### 【景観の保全と創造】

##### ■県土岡山の景観形成の推進

㊦景観行政団体となる市町村の拡大、㊦電線類地中化の推進 など

#### 【快適な生活環境の保全】

##### ■落書き防止、消去活動の推進

㊦落書き消去活動等の支援

##### ■光害に配慮した屋外照明設備の普及啓発

○ 指標の進捗状況 (通常指標：7 達成：1 不達成：2)

重点プログラム		項目	計画時点 (H18)	努力目標 (H24)	実績 (H23)	評価、問題点等	達成 状況	
協働 活動に よる 環境 促進 保	アダプト事業の推進	アダプト参加人数(人)	31,120	40,000	44,605	団体数、参加者数ともに着実に増加しており、当初の目標を達成することができた。	○	
	NPO等環境団体との協働による環境学習の推進	水辺教室の開催地区数	20	34	28	地域や団体の要望によって行う教室であり、団体等が水辺以外の環境学習を希望することもあるため、年度によって開催地区数の増減はあるものの、水辺教室以外を含む体験学習全体の実施状況は大きく拡大している。		
環境 学習 の 充 実	おかやま環境塾の実施	環境学習リーダー登録者数(累計、人)	63	150		多岐にわたる分野の環境学習事業の再構築を図るため、平成20年度に環境団体やNPO団体との協働による「岡山県環境学習協働推進広場」を設置し、当該参加団体等による、より効率的、効果的な体験型の環境学習の機会を拡充、推進しているところであり、21年度からは「おかやま環境塾事業」を休止している。 (広場の参加団体数 H23年度末:46)		
	環境学習エコツアーの実施	環境学習エコツアー参加者数(累計、人)	5,848	36,000	28,169	団体向けの参加申込数はバスの予定台数より多くなり、抽選を行った。また、個人向けコースについては、募集をH22より早く開始することができたため、参加申込が増加するとともに、参加者の満足度も高く、環境保全意識を向上させることができた。		
	こどもエコクラブの活動支援	こどもエコクラブの会員数(累計、人)	(H17) 2,321	17,600	15,458	県内のエコクラブ間の交流と活動の活性化を図るため、活動発表会を開催した。広報媒体などを活用して加入の促進を行ったものの、会員数は前年度より減少した。		
	学校内への快適空間の整備	「エコ広場」の整備校		0	(H23) 10	7	高校生自らが企画・提案した「憩いの広場」について、ユニバーサルデザインの観点に立ち、エコ製品を活用した施設整備を行った。(1校) ・岡山支援学校(ニコエコ) 【高等部中庭をエコ製品を使って整備:約400㎡】	×
		「木の快適空間」の整備校		6	(H23) 16	13	高校生自らが企画・提案した「木の快適空間」について、ユニバーサルデザインの観点に立ち、県産材を活用した施設整備を行った。(1校) ・邑久高等学校(O・K・U・D) 【食堂を、全校生徒の「憩いの場」という側面に加え、「学習活動の場」「地域交流の場」としても活用できる多目的スペース「ちまち」に改修:約180㎡】	×
全 景 と 観 創 の 造 保	電線類地中化の推進	電線が地中化されている道路延長(km)	12.65	22.66	17.39	着実に電線類地中化延長が増加している。		
環 境 適 な 保 生 活	落書き消去活動等の支援	ボランティア団体等の落書き消去活動を支援する市町村数	0	27		落書きが少なく問題意識の低い市町村等もあり、県下全域へ支援体制を広げていくことは困難である。		

## 推進目標２ 環境と経済が好循環する仕組みづくり

### ○ 主要施策・重点プログラム (■：主要施策 ⑩ ㊦：重点プログラム ⑳)

#### 【環境に配慮した事業者の育成・拡大】

##### ■環境マネジメントシステムの普及拡大

㊦ISO14001等認証取得の推進、㊦エコアクション21認証・登録の推進

##### ■CSR（企業の社会的責任活動）の普及

㊦中小企業の環境対策の促進

##### ■環境保全のための費用負担意識の普及

#### 【環境ビジネスの拡大】

##### ■グリーン購入等の推進

㊦「岡山県エコ製品」の認定・公表、㊦「岡山エコ事業所」の認定・公表 など

##### ■省エネルギー機器等の普及促進

㊦省エネ住宅の普及拡大、㊦省エネ家電製品の普及拡大

##### ■安全・安心な農林水産物の生産

㊦有機無農薬農産物等の生産振興

#### 【環境産業の創出・育成】

##### ■環境関連分野、バイオ関連分野等の研究開発支援

㊦研究者の支援、㊦産学官連携等による共同開発支援

##### ■リサイクルビジネスの育成

㊦循環資源の活用推進、㊦循環型社会形成推進モデル事業の推進 など

##### ■バイオマスの利活用推進

㊦バイオマスプラスチック製品の実用化、㊦木質バイオマスの活用推進 など

#### 【環境影響評価の推進】

##### ■環境影響評価の厳正な実施

○ 指標の進捗状況 (通常指標：7 達成：4 不達成：0)

重点プログラム	項目	計画時点 (H18)	努力目標 (H24)	実績 (H23)	評価、問題点等	達成 状況	
事業者の育成拡大 環境に配慮した	エコアクション21認証・登録の推進	エコアクション21認証・登録事業所の数	25	200	82	補助制度は廃止したが、エコアクション21地域事務局(岡山・倉敷)の協力等により、認証・登録事業者数は82件となっている。	
	「岡山県グリーン調達ガイドライン」に基づく取組の推進	再生品使用促進指針の指定品目数	166	175	189	目標を上回る製品を指定するとともに、ガイドラインに基づく購入は、100%実施できた。	○
環境ビジネスの拡大	「岡山県エコ製品」の認定・公表	岡山県エコ製品の認定品目数(累計)	457	600	423	平成23年度は、16件の新規認定を行い、一方廃止は5件にとどまったため、総数で前年を上回った。	
		巡回エコ製品等普及展示会延べ参加者数(人)	4,495	5,000	5,310	県内3カ所で普及展示会を開催したところ、目標を上回る参加者を得ることができ、岡山県エコ製品等の普及啓発に大いに役立った。	○
	「岡山エコ事業所」の認定・公表	岡山エコ事業所の認定件数(累計)	203	250	277	平成23年度は、10件の新規認定を行い、一方廃止は4件にとどまったため、総数で前年を上回った。	○
	有機無農薬農産物等の生産振興	有機無農薬農産物の生産量(t)	1,453	(H23) 1,600	1,605	高齢化等により栽培面積が減少した集団もあるが生産量は年々増加し、ニンジン等の規模拡大や大規模な水稲生産者が参入したこともあり目標を達成した。	○
		特別栽培農産物集団数	24	50	29	特別栽培農産物のガイドラインにより、農薬等の使用量の県慣行レベルを設定し、取組の啓発を図った。	